

●人間として生きる ●気づき

と知ること ●作品と表現 ●価値と価格 ●メディアとメディア

エーション ●マイノリティと独創性 ●生命と機械 ●貨幣とデ

ジタル ●コンセプション ●西欧近代と東アジア ●預言者と機

# アート&テクノロジーへの問い

械 ● 猛  
烈 最短

Directed by **Fujihata Masaki**

美術史 ● 科学・哲学・芸術

●機械と人間 ●因果律と偶然性 ●道具と装置 ●独創性と

逸脱 ●共同体と記憶 ●鑑賞と関与 ●見ること ●

アートは

2024年5月より全8回予定 ●5月26日 第1回：人間として生きる「ガイドダンス」

●6月16日 第2回：道具と装置「人間について」 ●7月7日 第3回：猛烈最短美術史「絵画史」

●8月18日 第4回：鑑賞と関与「見ること」 ●9月22日 第5回：コンセプションとメディアム「孕むこと」

●10月20日 第6回：生命と機械「知ること」 ●11月17日 第7回：作品と表現「価値について」

第8回：海外有識者等を招いたシンポジウムを予定 参加費・無料

会場：シビック・クリエイティブ・ベース東京「CCBT」

通時的・共 機械化する環境への

時的 防波堤になり得るか？

テクノロジーの進展とともに変化し続ける私たちの生活・未来・社会。AIやWeb3といった新たな動向を前に、科学・芸術・哲学・技術と、その関係性を、私たちの社会や歴史から読み解く連続ミートアップを開催します。メディアアートのパイオニアである藤幡正樹氏とCCBTが協働し、全8回の特別カリキュラムを実施。対話を通じた気づきや新たな発想を重視し、実践編として課題テーマをもとにした共同制作も試行する予定です。鑑賞者、アーティスト、学者など、新たな創造的視点を探求する幅広い層を対象に、アートとテクノロジーの交差点から未来の社会を構築するための学びの場を提供します。

\*本シリーズは、シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]において国内外の研究者等をパートナーとし、シビック・クリエイティブの実現に資するための研究、開発とその公開を推進する「リサーチ・パートナー・プログラム」の一環として行われます。

#### 申込方法

第2回—第7回 事前申込制  
すべての回に参加できることが条件

申込期間:2024年5月16日[木]→6月6日[木]

#### 定員:50名

- ・申込多数の場合は、応募内容をもとに抽選を行い、参加者を決定します。
- ・抽選の結果は、2024年6月10日[月][予定]に応募者のEmail宛にご連絡いたします。

応募方法:CCBTウェブサイトより、  
応募フォームにてお申し込みください。

- \*初回[第1回]・最終回[第8回]は申込不要です。
- 第1回は本カリキュラムについてのガイダンスとして実施します。

#### 藤幡正樹 (メディアアーティスト)

<http://www.fujihata.jp/>

日本のメディアアートのパイオニア。80年代は《Mandala 1983》などのコンピュータ・グラフィックス作品、その後《Geometric Love》等の彫刻作品を経て、90年代は《Beyond Pages》などのインタラクティブ・アート作品を制作。同時期の1996年にネットワークをテーマにした作品《Global Interior project》で、アルス・エレクトロニカ・ゴールド・ニカ受賞。2000年に入ってから、《Morel's Panorama》《無分別の鏡》《Ruska's Room》《Eternity of Visions》などのイメージと仮想空間の問題を扱ったインスタレーション作品を展開するが、同時により公共性の高いプロジェクト型の仕事を始める。2001年に始まった、GPSを使ったフィールドワーク・シリーズは、《Field-work@Hayama》から、《Field-work@Alsace》、そして2012年の《Voices of Aliveness》まで展開する。2018年には香港で、また2022年にはロサンゼルスで、歴史をテーマとした大型のARのパブリック・アート・プロジェクト《BeHere / 1942》を実現。ここ数年は、《Brave New Commons》《My First Digital Data》と、NFTを扱ったプロジェクトを展開している。

**CCBT**  
シビック・クリエイティブ・ベース東京

お問合せ:  
電話番号:03-5458-2700(開館時のみ)  
E-mail:ccb@rekibun.or.jp

自分のやっている仕事の意味について問われ、人前で話さなければならぬことが多かったことから、いつも答えを探し、ことばを探してきた。ここで話すことは自分の経験に根ざしたことばなので、とてもわかりやすい話ばかりになると思う。

藤幡正樹

会場:シビック・クリエイティブ・ベース東京 [CCBT]

\*開催回により会場が変更になる場合は事前に参加者にご案内します。

5月26日[日]●[申込不要]第1回●15:00~17:00

人間として生きる [ガイダンス]

何をやろうとしているのか、また参加する人たちに考えて欲しい問題を提起します。芸術と技術の間には密接な関係がありますが、20世紀美術の流れはそこからの離脱を企画してきたために、それについて語ることは忌避されてきました。しかし、私たちの現実の生活は極端な技術的環境の中にあります。このギャップについて語る事が、現在もっとも大切な芸術のあり方だと思うのです。

6月16日[日]●第2回●16:00~18:00

道具と装置 [人間について]

道具とは人間にとって、いかなるものなのでしょうか。道具の発明は人間に記憶の外在化のチャンスを与えました。それが記号を生み、文字を生み、書物を生み、現在のデジタルメディアの誕生に繋がります。しかし、この連続する発明はこれで終わったわけではなく、現在も進行中であり、それに挑戦する詩人とアーティストを待ち続けているのです。

7月7日[日]●第3回●16:00~18:00

猛烈最短美術史 [絵画史]

ここから先に踏み込む前に、美術の歴史を振り返っておきたいと思います。そこには実に豊富な資源がありますが、ただの教養としてカテゴライズされてきたことで、歴史的に人類が行ってきた行為とその結果についてうまく学べていません。歴史に対する多少異なった見方を提案します。

8月18日[日]●第4回●16:00~18:00

鑑賞と関与 [見ること]

あなたは十分に世界を見ることができていますか? 良き鑑賞者であることは、自分の創作、表現活動の絶対条件です。人は、自分にかかっているバイアスをどのように認識することができるのでしょうか? いろいろなアプローチについて考えてみたいと思います。

9月22日[日]●第5回●16:00~18:00

コンセプトとメディウム [孕むこと]

「コンセプト」ということばは、現代において多用され、多くの人にとってもっとも理解しにくいことばでありながら、もっとも重要なことばでもあります。なぜ「コンセプト」が重要なのか、なぜ苦手なのかを考えていきます。

10月20日[日]●第6回●16:00~18:00

生命と機械 [知ること]

20世紀以降、生命と機械はまったく別のものとした議論が揺らいでいます。科学が進めば進むほど、人間は限りなく機械に近いことがわかってきます。同時に機械が限りなく人間に近づきつつあることも知られています。第5回までの背景の上に、今後もっとも中心的課題になるであろうこの問題について、まず触れてみたいと思います。

11月17日[日]●第7回●16:00~18:00

作品と表現 [価値について]

ものとしてのアート作品の市場は、これまでにないような活況を呈しています。この現象とアート作品の価値は必ずしも直結していません。どうしてこのような状況が生まれたのでしょうか? 考えるための補助線を引いてみようと思います。

[申込不要]●第8回

海外有識者等を招いたシンポジウム

Website—<https://ccb.tokyo>  
X—@ccb\_tokyo  
@ccb\_tokyo  
@civiccreativebasetokyo

〒150-0042 東京都渋谷区宇田川町3-1  
渋谷東武ホテル地下2階  
アクセス:渋谷駅ハチ公改札口より徒歩8分  
開館時間:13:00~19:00 | 休館日:月曜日